

くまもと「描く力」熊日大賞 上村さん

豊かな想像力 さく裂

熊日美術公募展「くまもと『描く力』」(特別協力・崇城大)の審査が10日、熊本市中央区世安町の熊日本社であり、頂点を競う「グランプリ部門」の最高賞、熊日大賞は上村順次さん(75)＝同市北区＝の「『蜃気楼』」に決まった。愛好者向けの「ふるさと部門」トップ、ふるさと賞は黒木幹子さん(63)＝芦北町＝の「日影を求めて」。

九州沖縄の高校生が対象の「チャレンジ部門」は11日、審査する。

ふるさと賞 黒木さん 表情に人生の集積



上村さんの受賞作は、ヘビやカマキリ、イモムシ、人などを強烈なタッチで描いた、命あふれんばかりの油彩。昨年の山下裕二賞(審査員特別賞)に続く2度目の受賞。

「原始的なモチーフ、豊かな想像力をそのままぶつけており、『描く力』がさく裂していた。圧倒的にパワフルで、引きつけられた作品」と高い評価を得た。

はるかな麦畑を背景に、陰影のある老婆の顔を大きく描いた黒木さんの水彩は「陰りのある顔の表現に、人生の集積を感じた。遠景

出品前日まで頑張った
ふるさと賞・黒木幹子さん
(63)の話 失敗を繰り返しながら
出品する前日まで頑張った

が、自分の描きたかったものが
どう受け取られるか、微妙な気
持だった。それだけに受賞は
驚きで、舞い上がっています。
本当にうれしい。

に空を配した構成もい
い」と一致した。

両部門とも、県内在
住経験がある人を対象
に平面作品を募集した。

グランプリ部門には1
10人・149点、「く
まもと・人・光・風」
がテーマのふるさと部
門には77人・92点の作
品が寄せられた。

審査は、潮江宏三(美
術史家・京都市美術館
長)、山下裕二(美術
史家・評論家)、桜井
武(熊本市現代美術館
長)の3氏があたり、
入賞・入選計88点を選
んだ。

入賞・入選作品展は
11月25日・12月6日、
熊本市の県立美術館分
館で。入賞作品と審査
員評は後日、本紙特集
面で紹介する。
(小野田起子)

さまざま公募展に出品
し、トップを目指してきた。
「狙うからこそ、受賞はい
わば『当たり前』。だけど
大変なことだとも思う」。

独特な表現で喜びを語る。
大賞作品の中心にイモム
シを捕食するカマキリ、オ
スとメスのヘビ、そして生
まれる子どもと産婦人科医
。イメージは「生命の継
続」。「あらゆる生物が意
味を持つ地球にいる。実
際すべては目に見えない
間、絵筆は置いていた約40年



ひと

くまもと「描く力」熊日大賞に選ばれた 上村 順次さん(75)

経営に区切りを付けて、
13年前に再びキャンパスに
向かった。昨年の「描く力」
では審査員特別賞に選ば
れた。

絵は「自分の心で見たも
の、感じたものを描くこと」
が信条。そして「絵は教え
るものでも教わるものでも
ない。自分の中から湧いて
くるものだ。描きながら、
さらに吹き出す感情。これ
らを大切にしながら、自分
の感性が訴えかけることを
表現し続ける。

時間があれば、近くの山
へ野草を探りに。妻悦子さ
ん(78)と料理して楽しむ。
3人の娘は独立。正月には
5人の孫が顔を見せ、にぎ
やかに過す。
(飛松佐和子)

入賞・入選者名簿 (敬称略)

【グランプリ部門】

◇熊日大賞「蜃気楼」(油
彩) 上村順次(75)＝熊本市◇
桜井武賞「列(上昇)」(油
彩) 井島秀夫(64)＝同◇潮江
宏三賞「どんよるてん」
(アクリル) 福島里菜(23)＝
同◇山下裕二賞「古事記」
(アクリル) 井井綾子(52)＝同

◇入選 宮中千秋、木村登
美子、大野和美、内田千賀子、
小山寛誠、柳田慶二、大田黒
翔代、中村美由紀、井上あや、
松村亘、松永健志、本寺渡、
三藤有希子、桑田一男、富田

耕平、井福加代子、金場利夫、
中尾明子、前田美代子、長野
紀子、原崎健次、釘本浩志、
瀬口忠一、中村恵美子、高山
法雄、林良助、田中恵津子、
渡辺節子、高見愛、杉村喜久
江、緒方麻子、原田節子、吉
家研二、濱口祐示、橋口孝行、
山口幸富、本山正喜、菊本光
江、池田道明、本田崇、澤村
武山、光武美沙希、本村徹郎、
河原律子、石田洋一郎、石田
澄男、古閑良隆、高橋英雄、
宮本華子、白濱誠一

【ふるさと部門】

◇ふるさと賞「日影を求
めて」(水彩) 黒木幹子(63)
＝芦北町◇特選1席・東宝木
慶一、船山文子、松本りえ